

## 審議会での主な意見（要旨）

1 総括的事項
(1) 社会経済情勢の変化や時代の要請への柔軟な対応
<p>① 10年後にどうあるべきかというビジョンを持ちながら、社会、経済、そして市民を取り巻く時代の潮流や今後の様々な環境の変化を捉え、しっかりと対応していくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにまちは変わっているのか、あるいは文明とともにどのようにまちは変えられていくのかということも考えながらこれからの10年を捉えれば、やっていかなければならないこと、決めていかなければならないことが見えてくるのではないかと</li> <li>・これから90年経ったときに、まちがどう変わっていくのか、どう変わっていかなければならないのか、そういうことを踏まえながらこの10年を見据えていかなければならないと思う。</li> <li>・10年後なので、デジタルトランスフォーメーションによる変化など、新しい未来が、より見えるような総合計画にしていければいい。</li> <li>・働き方改革などコロナ前からある課題と、新しい生活様式などコロナ後に新しく出てきた課題は、解決の時間軸が違うので分けて議論した方がいい。</li> <li>・県外から移住される方はこれからも増えるのではないかと。</li> <li>・ウィズコロナで社会が大きく変わる中、地方回帰が言われ始めている。</li> <li>・コロナ禍により、東京一極集中から地方の価値が改めて顕在化したところがあり、若者をはじめとした地方回帰の動きも踏まえ、これを契機に新しい地域のあり方や鹿児島県の価値を考える視点が重要。</li> <li>・リモートワークの普及により、地方からでも仕事ができるようになり、色々な環境で働けるような状況になってきている。</li> </ul>
<p>② SDGs（持続可能な開発目標）の視点を大切に、誰ひとり取り残さない鹿児島市となるよう、市民の幸せにつながるような政策の実現を目指すこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の行政施策あるいはサービスの最終目標は、全ての市民を幸せにするということだと思う。SDGsの観点においても、誰ひとり取り残さない鹿児島市にしていこうということだと思う。その意味では、人材、ジェンダー平等といったものが通底に流れるものになってくるのではないかと。</li> <li>・SDGsの浸透について、行政がもっと主導すべきではないかと。</li> </ul>

(2) 「協働」から「協働・共創」へ

① まちづくりは、行政がやるべきこと、市民や地域、事業者ができること、各主体が連携しながら取り組むことがあり、各主体が当事者意識を持ち、能動的にまちづくりに関わっていけるような仕組みづくりを行っていくこと。

- ・市民が、総合計画に示された施策・取組に、チームの一員として参加・挑戦できるような計画になればいいと思う。例えば、一人一個ごみを拾うとか、何かそういう具体的なことで、参画できるような実施計画になればいい。
- ・コミュニティの重要性や、行政だけでなく市民でできることは市民が実行していくということ、これはこの先10年間を見据えるにあたって非常に重要なポイントだと思う。色々な主体をつなぐ役割やそういうことを可能にするプラットフォームづくりが重要である。
- ・この計画ができたときに、これを実行するのは、行政だけではなくて、民間や地域コミュニティなど、市民含めて全員で連携して取り組むべきものだと思う。この計画を見たときに、実施するのは行政だと思わないように、当事者意識を持ってもらうことが大事だと思う。地域の課題は複雑に絡み合っており、いろんなセクターが連携して取り組む必要がある。一人ひとりが当事者意識を持って計画を主体的に取り組んでいくことが大事だと思う。
- ・「サービスを受ける」「待つ」「調べない」「読まない」「無関心」といった姿勢ではなく、市民ひとりひとりが「ともに市の未来を創る」「参画する」といった、主体的で生産的、能動的な姿勢を持ちやすい空間デザインや仕掛け作りが重要。
- ・ボランティアという言葉が何となく遠のいてしまっているのではないかな。
- ・基本目標に「健全な財政の維持」という文言が入ってはいるが、今後、厳しい財政の中、何もかも行政頼みではまちづくりは進められない、そのための協働・コミュニティということであれば、その趣旨をもう少し明確に書いていいのではないかな。

② 市民や地域、大学、事業者などあらゆる主体の資源や機能、特色を生かし、ハード・ソフト両面から地域や社会の課題を持続的に解決する方法を共に考え、共に行動する協働・共創の視点を大切にすること。

- ・中核市の中でこれだけ大学が集まっている都市は珍しく、本市の特徴的な部分であろうと思う。県外で発展している都市は大学とともに地域づくりに取り組んでおり、地域づくりと大学という視点を盛り込めないかな。
- ・「健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、共に助け合い、一人ひとりが自分らしく生活できる地域づくりを進めます」という言葉の中には全て入っていると思う。ただ現実には、地域で困っている人は本当に些細なことで困っており、「支え合い」だけでは補えない部分もある。行政が主導し、コーディネートできればと思う部分もあるので、「自分らしく生活できる地域づくり」というところに、その内容が入ればいいのではないかな。
- ・官民連携について、施設整備の際にPFIを使ったりするが、単純にハード整備だけでなく、社会課題を解決するにあたって若い人を巻き込んだり、あるいは地域外の人を巻き込んだりしながらビジネスとしてやっていく、コミュニティビジネスとか課題解決型ベンチャーがある。官民連携という言葉はハードだけでなく、ソフトの色々な政策の実行にあたって色々主体をつないでいく、あるいは官民連携していく、さらにはそれをビジネス化して民に任せていく、そういう観点を検討する余地があると思う。

## 2 基本構想（案）に関する事項

### (1) 都市像

① 長年培われてきた鹿児島市ならではの心の豊かさや人に着目し、顔を合わせ、対話する中で人を育てるなど、人と人とのつながりや支え合いを大切にすること。

- ・指標だけではなく、豊かな精神性とか、「人」に着眼する必要があるのではないか。
- ・人と人が顔を合わせながら何かを進めていく、深めていくというところをどう具体的にやっていくのか考える必要があるのではないか。
- ・新型コロナによって人と人とのつながりの大事さに気づかされている。
- ・ICTを使う部分、人と人が直接つながっていく部分というのをそれぞれ進めていくことが必要だと思う。
- ・鹿児島県民は非常に情熱的で、人情味が厚いと思う。そういうことを大事にしていきたい。
- ・対話の中で、人間性あふれる人材を育てていかないといけないと思う。
- ・小学校の時から、宿泊型の人材育成に参加したり、子どもミーティングや創志塾に参加して、いろんな人に出会うことで鹿児島のことがどんどん好きになっていったので、そのような事業は今後も続けていってもらいたい。

② 国籍、性別、年齢、障がいの有無、居住地などを問わず様々な意見や視点を大切に、基本的人権や多様性が尊重される地域社会を形成していくこと。

- ・外国の方の目線をもっと大事にすべきである。
- ・県外からの視点なども踏まえながら、具体的に進めていくべきである。
- ・人権についての項目が、前は人権意識の向上や啓発に重きが置かれていたように思っていたが、今回は、「性別や年齢、国籍などに関係なく、一人一人の人権が尊重され、個性と能力を発揮できる地域社会を築きます」とあり、人権意識の向上、人権意識とは何かということが具体的に書かれており、とてもよい。
- ・ICTを活用した働く環境づくりやLGBTなど価値観の多様性の部分があり、あまり盛り込まれていないように感じる。多様な社会を実現するために、どのようなアクションを取るかというところまで盛り込めないか。
- ・今回、若者会議や外国人の方の意見を聞いているが、このスタイルをもっと広げて、例えばハンディキャップのある方、もしくはヤングケアラーの方々の声を聞くように、アウトリーチで当事者の声を聞き取って施策をもっと良くしていくというスタンスが大事かと思う。
- ・外国人の視点をもっと取り込む必要がある。
- ・鹿児島市に住む外国人が今後増加することが予想される。これからは、若い労働力になったり、国際結婚して少子高齢化に対しても貢献したり、移住者として鹿児島に資産を持ってきて居住する可能性もあると思う。外国人がこれから増える点について言及が少ないのではないか。

③ 自治体間の競争が進み、とりわけ若者の県外流出が危惧される中においても「選ばれる鹿児島市」となるよう、様々な自治体・地域と連携しながら、医療や子育て、産業などの環境を整備し、働きやすい・暮らしやすい鹿児島市の実現を目指すこと。

・人をどう育てていくか、人への投資をどうするか。ICT人材やベンチャーを育てていくということも同じだと思う。そういう環境を行政としてどうつくっていかれるかだと思う。全ての自治体が競争をするわけだが、鹿児島に住んでもらうためには、それだけの魅力が必要で、医療や子育てなどの環境整備をやっていかないといけないと思う。

・現在、家族と一緒に食事をできる労働者がどれだけいるのかと思うが、家族と一緒にご飯を食べることのできる、働きやすい・暮らしやすい世界一の鹿児島を目指してほしい。

・高校卒業と同時に県外に就職した人たちもいるが、そういった人たちが楽しい・帰ってきたい・鹿児島に残りたいと思ってもらえる鹿児島を創っていきたいと考えている。

## (2) 基本目標

① スポーツや文化など複数の政策に関連する分野については、各基本目標間で連携し、多面的な視点から取組を進める中で、その実現を目指すとともに、社会における様々な機能等の複合・連携の視点を持って取り組むこと。

- ・社会における様々な機能や主体の複合化・協働・連携を率先、先導するという観点も重要（コミュニティ協議会、コミュニティスクール、地域包括ケア、まちなか図書館など）
- ・子育てにおける福祉は多様化してきており、障害のある子どもにかかる福祉関係の部分も大きくなっている。子育てに関しては、教育と福祉が融合するような方向性・表現の工夫ができないか。
- ・キャリア教育は「信頼・共創政策」や「産業・交流政策」など、他の政策と連動・横断しやすく、本来、学力向上まで含めた用語である。若年者の地元定着にもつながるので重要だと思う。

② ICT（情報通信技術）の利活用については、高齢者などにも配慮しながら、市民サービスの向上や社会課題の解決、多様な社会への関わり方の実現等の観点を大切に、あまねく市民がその恩恵を受けられるよう進めること。

- ・デジタルトランスフォーメーションが言われているが、その要素が少ないと思う。
- ・重点プロジェクトの中でICTで住みよいまちとあるが、どちらかといえば市民サービスが中心となっている。社会課題の解決に活用する視点を入れてもいいのではないか。
- ・ICTは、お年寄りのことも考えながら、慎重に推進していく必要がある。
- ・ICTを、便利になるツールとして必要な方に提供できる仕組みを作っていくべき。
- ・ICTを使いこなせる若い人たちが、使いこなせていない世代の人たちに対して、地域でどんどん教えてあげるような活動ができればいい。
- ・鹿児島らしいICTの未来について、ICTの活用により機械化等が図れるという観点もあるが、一步進んで、国籍、性別、年齢などダイバーシティの観点から、子育て中の方や高齢者、障害のある方など、ICTがより多様な市民の社会の関わり方や働き方を可能にするという観点を入れてはどうか。
- ・ICTを活用した働く環境づくりやLGBTなど価値観の多様性の部分があまり盛り込まれていないように感じる。多様な社会を実現するために、どのようなアクションを取るかというところまで盛り込めないか。
- ・学校のICT教育において教える先生がいないという状況も聞く。情報格差が出てくると、情報の格差が教育の格差に、教育の格差が経済の格差につながってくる。ICTの活用というのはすべての政策の上において前提としていかないと、地方と東京のギャップが出て、それが貧困差にもつながるといことが、この10年、20年で起こってくるのではないかという危機感を持っている。鹿児島市が今後、都市として成長していくには、あらゆる分野でICTを重点的に活用していくべきだと思う。

③ 鹿児島市の様々な資源や魅力を市民も巻き込みながら発信するとともに、市民が地域に目を向け、地域の価値を再認識できるよう、シビックプライド（自らのまちに対する誇りや愛着）を醸成すること。

- ・ 地域にある資源をもう一度発掘したり見直していく必要があるのではないか。
- ・ 全国あるいは世界の中でもきらりと光る都市になるポテンシャルが高い。
- ・ プライドを持っていくことが、人の育ちにも町の育ちにも重要である。
- ・ 県都としての鹿児島市、もっと言えばアジアの中における鹿児島市とか、無意識かもしれないが、明らかに市民を形作っている「思い」「自信」といったものを計画立案に上手く取り入れていくべき。
- ・ コロナ禍でなかなか海外の人が、日本に、鹿児島に来られないと思うが、まずは、鹿児島市に住んでいる人たちが、自分たちの地元の良いところを知って、みんなの中で発信していけば、必ずコロナが明けるときがくるので、その時の準備になるのだろうと思っている。
- ・ シティプロモーションなど、今後10年間でどう世の中が変わるか分からない中、ぶれない軸が通っていることで住んでいる人のプライドにつながるのではないか。
- ・ 市民も職員も、みんなが市の資源の発信者、広報者という意識ができれば理想的。TikTok等で地域情報を発信するインフルエンサー（フォロワー40万人以上）学生の例もある。

④ ゼロカーボンシティや3Rなどに市民全体で取り組みながら、持続可能な地域社会の実現に努めるとともに、それが行政や企業にとって強みとなるよう取組を進めること。

- ・ 「ゼロカーボンシティかごしま」はいい取り組みだが、ただ自然のためというだけでは意味がない。その取組自体が他都市より勝っているとか、企業の競争力を上げるというようなことに結び付けられないか。
- ・ ゼロカーボンシティや3Rに加えて、「アップサイクル」や「脱プラスチックシティ」といった視点も入れれば、他都市と差別化が図られ、稼げる鹿児島市につながるのではないか。
- ・ 環境に関して市民全体で取り組んでいく表現を盛り込めないか。

⑤ 人口減少に伴い労働力人口の減少や消費市場の縮小なども懸念される中、まちの活力を維持・向上させていくために、新しい産業の創出支援や戦略的な企業の誘致、生産性向上、高付加価値化などを通して、地域の稼ぐ力を向上させ、未来を担う若者をはじめとしたあらゆる世代の働く場づくりを進めること。

・人口減少対策として、よく「大学や理系学部を増やせばいい」という提案を聞くが、現場では「国公立の教育機関のいずれも、持続発展と地域貢献にはまず出口対策が全ての基点で、20年が必要」と感じる。理系の学部を創っても、第二次産業が著しく少ない鹿児島現状を打開しなければ人口流出には歯止めがかからず教育機関も維持できない。一方で、食品加工業はかなりの健闘がみられるので、既存の製造業以外の製造業等の誘致が強化できないか。また、SDGs パートナー企業等に脚光を当て、先進性や産業活性に繋がれないか。

・福岡市はベンチャー企業を増やそうという政策をしている。鹿児島で大学を卒業した際に、産業が無いから都市圏に行くのではなく、鹿児島に戻ってくるという人を増やすためにも、鹿児島で何かビジネスをしたいという若者に対して、行政であったり民間であったりが人・もの・金を提供することで、鹿児島に新しい産業を増やしていくというところをやるべきだと思う。行政の支援や民間のお金を投入したり、あるいは関東圏からそういう知見がある人に来てもらったりというアクションをやっていく必要があると思う。どの都市もやっていることなので、ここで負けないように、今のうちにやっておくべきだと思う。

⑥ 鹿児島市の自然や風土に育まれた文化・芸術・祭り・スポーツ・歴史・食など、あらゆる資源の活用や新たな魅力の創出、資源の掘り起こしの視点を大切に、それを鹿児島市の強みとして観光・交流の推進や地域産業の活性化などに積極的に生かしていくこと。

- ・地域には活用できる文化財がたくさんあるのではないかな。
- ・「豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち」には「文化」という言葉がない。「豊かな個性」に地域文化という考えが入っているとは思いますが、誰もが生涯に渡って学び続けることができる環境を整えるほか、「地域文化や文化芸術」というように「地域文化」を具体的に入れてはどうか。
- ・鹿児島には世界と勝負できる素材として、伝統工芸や世界遺産、仙巖園があり、「地域産業の活力の創出」の「伝統工芸」に、薩摩切子や薩摩焼、竹細工、大島紬が入る。歴史や文化、そして自然とも深く関連しており、「子ども・文教政策」の「歴史・文化資源」にもまたがると思う。ただ、これらの魅力や価値が、基本目標にあまり浮き出していないという印象がある。県との連携や住み分けもあると思うが、鹿児島市に情報や流通等の機能が集中するのでできれば特色が強くと出れば良いと思う。
- ・他の自治体の都市像と比較して、特徴的なところを打ち出す必要があるのではないかな。
- ・スポーツ課・スポーツ振興協会・磯町内会等と大学による磯ビーチ活性化プロジェクトでは、桜島・錦江湾の絶景やイルカなどに会い、自然の恵みに圧倒される。都市の快適さと豊かな自然が同居する、世界でも類を見ない画像・映像をPRし、U I J ターンや移住の促進でニューノーマルを活かした地方回帰に繋げたい。
- ・観光資源を生かして潤っていくことはとても大事である。
- ・オンリーワンの魅力創出が大事。
- ・文化・芸術・祭りというのも交流の手段になりうると思う。文化・芸術というものを鹿児島市内の中で育むというのも良いと思うが、それを対外的に交流につなげるという役割もあると思うので、そういう視点で盛り込んでいただけないかと思う。
- ・稼ぐ力はまさにそのとおりでキャッチーではあるが、少し生々しい。
- ・NPOで活動していると、資金力がない中で生産性を上げるという稼ぐ力というのを最近、県の共生協働などでも、力を入れて推進をしている部分でもある。そういう意味では、企業だけではなく、地域の中でいろんなことをやっていく中にコミュニティを含めた、稼ぐ力が入ってくるのではないかなと思う。これから先はこのようなことが重要視されていくかなと思う。
- ・稼ぐ力というのは、知事も市長も公約に入っている。稼ぐの定義をした方がいい。誰が稼ぐのが、稼いだお金はどこに行くのか、非常にあいまいである。
- ・「稼ぐ力」は、例えば観光業・観光施策で、インバウンドが増えても実際に鹿児島に落ちるお金が少ないという課題認識の際によく聞く。あるいは、自治体やNPOのように、公共性が高く「稼ぐ」イメージのないところが、財政難の現状打開や維持発展のために強調し、あえて「稼ぐ自治体 (NPO)」と言うことがある。どの表現が鹿児島市のカラーを強く出せるか、という観点で選べばいいのではないかな。
- ・「スポーツを楽しむことができる環境」とあるが、人が集うためにということであれば、文化・芸術・芸能なども含めるべきではないかな。
- ・スポーツ交流は五次総では文化と同じ政策にあったが、産業交流に移って稼ぐ力の一貫にしようという思いもあるかなと思う。そういう面があるのであれば、そのことも表現してはどうか。
- ・第1回審議会でも意見が出たが、交流を生むのはスポーツだけではなく文化芸術もあるのではないかな。
- ・観光資源の活用について、プロスポーツの活用は基本目標にも掲げられているが、プロスポーツが地域を盛り上げるというのが一つと県外からくる方々が増えるというのがあげられる。また、前回も文化の話もあったが、例えば桜島では「グレートサツマニアンヘス」というのがあるが、音楽・文化・芸術を使った観光資源化・シティプロモーション活用をした方がいい。音楽フェスで若者に人気のある方がSNSで地元の飲食店をあげて認知度が上がったという例もある。コロナ禍の中で、こういったことをやっていけばいいのではないかなと思う。
- ・産業・交流政策の1「地域特性を生かした観光・交流の推進」の項目のいずれかに、「主な取組」にある「自然、歴史・文化、食などの」の表現が入れられたら、一段、特性が強化される気がする。

	<p>⑦ 多様な暮らし方に配慮しながら、市街地、農村・中山間地など、それぞれの地域で、誰もが心豊かに、安心・快適な生活を享受できるよう取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地だけでなく、里山があるような農村、中山間地の暮らしが取り残されないような視点が必要。</li> <li>・質の高い暮らしとはどういう意味かと思うと、精神的に豊かな、ということに多分なるのかなと思う。コンパクトなまちづくりは機能性を持つという意味では大事な部分なのかなとも思いつつ、自分らしく生きるという意味では、過疎地に生活を求めるというような、それぞれ人が住みやすいところで住んでいくとなったときに、どうまちの統制をとっていくのが難しいと感じている。</li> <li>・コンパクトなまちづくりについて、これから人口が減少し、財政にも制約がある中で、例えば公共インフラの更新時期を迎えたときに、ある程度の取捨選択や優先順位付けをしていかなければならない時がくると思う。コンパクトなまちづくりというのは、経済的にはいい話だと思うが、ともすれば都市の中心部と周辺地域との対立構図になるなど、非常に難しい課題なのかなとも思う。また、コロナ禍の中で、密を作るというのもいいのかという議論もあると思う。基本目標に「誰もが暮らしやすいまち」を掲げ、また都市像にも「持続可能なまち」を掲げており、大局的に見たときの価値判断の基礎になると思うので、「コンパクトシティ」というのは、都市マスタープランなど、もっと下位の計画に書きこまれるものだと思うが、そういった価値判断のできる総合計画であってほしい</li> </ul>
<p><b>3 計画の着実な推進に向けて</b></p>	
	<p>(1) 戦略的な施策展開</p> <p>① 本市の現況や時代の潮流を踏まえ、特に先導的かつ重点的に取り組む重点プロジェクトについては、財政が厳しさを増す中においても取り組まなければならないものであることから、その理由や方向性を市民に分かりやすく示し、その意義を共有しながら、積極的に推進すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これから10年先の鹿児島を描いていくにあたって、限られた行政資源・財源の中で、鹿児島市の意思というものをある程度示すのが、重点プロジェクトだと思う。この先10年間どういうことに鹿児島市が力を注いでいくのかということが、市民目線で分かるようにしてはどうか。</li> <li>・基本構想と前期基本計画のつながりについて、この3つが重点プロジェクトである意味付けが出てくると、重点プロジェクトの位置づけがはっきりしてくると思う。</li> <li>・基本構想の中に、基本計画・実施計画の位置づけがあるが、そこに重点プロジェクトが出てこないの、ここに重点プロジェクトの位置づけが出てくるというと思う。</li> </ul>

## (2) 市民との共通のビジョン

- ① 施策の推進にあたっては、効率性はもとより、効果的な施策・事業の展開を図るとともに、適切な目標指標を設定し、進行管理を行いながら、その進捗について市民と共有していくこと。

- ・「効率的で質の高い行政サービスを提供します」という文言があるが、効率のただと費用対効果が前面に出てくる言葉である。重要なことではあるが、行政サービスにおいては効率性だけではできないことが結構ある。「効率的で効果的な」という文言を入れてみるといいのではないかと思う。
- ・都市像を実現するために、基本計画があり、基本施策や数値目標のKPIが掲げられている。この施策を実施してKPIを達成すれば、目指す都市像に近づくということだと思うが、例えば、「自主的・自立的な行財政運営の推進」の指標「ホームページアクセス件数」など、KPIがこれでいいのかと思うものがいくつかある。指標について、もっと工夫が必要と感ずるので、ご検討いただきたい。

- ② 総合計画は市民との共通のビジョンであることから、市民に分かりやすい計画となるよう、平易な言葉遣いや読みやすい文章の長さ・資料の順番に留意するほか、効果的にグラフ・写真を用いるなど、市民目線に立ったデザインとし、その周知に取り組むこと。

- ・都市像は、6つの基本目標の言葉をうまくまとめているが、若干長いのではないか。ワンメッセージでビジョンやスローガンを表現した方がより伝わるのではないか。
- ・都市像について、ひとつひとつの言葉は良いが、やや長く感じ、個人的には「つながる人・まち 彩りあふれる」くらいの長さがいいと思う。鹿児島に住んでいる自分たちが、見て、口ずさんで覚えてしまう表現がいいのではないか。
- ・シビックプライドは用語の補足説明が必要である。
- ・基本目標の文言の中には、いくつかの業種や分野が例示されているが、市民が読んだときに、戦略的な分野で順番に並んでいると受け止められるのではないか。スポーツ、産業、商業、農林水産業などの優先順位の見せ方をどうするか。
- ・どんなスタンスにするか、方針の違いで選ぶ言葉が異なる。冒険の度合いが低い表現で、できるだけ穏やかにまとめるか、それとも、尖った流行りの言葉を入れて攻めの姿勢や挑戦的な雰囲気を出すのか、どちらもありうる。政策や場所によって書き方を変えてもいいのではないか。
- ・都市像の文中に「次の都市像を掲げます」とあり、その後、大文字で「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」と出てくるが、分かりづらく、もっと強調してもいいのではないかと思う。
- ・都市像の文中に「鹿児島への思いを寄せてくださる多くの人々」という文章があるが、「思い」ではなく「想い」の方がいいのではないか。
- ・グラフや表があるが、出処が分からないものもあり、記載した方がいい。
- ・写真やグラフについて、なぜこの写真が出てきているのか分からないものもあり、現状と課題につながるよう工夫してほしい。
- ・基本施策ごとにSDGsとの関係性についてアイコンがあるが、SDGsの内容の説明は計画書の後ろの方にあり、分かりづらい。
- ・最終的なアウトプットのデザインというのが、第五次総合計画を見ると、普通の市民が見ていくにはハードルが高い。デザインや見やすさを工夫することで、一人ひとりが興味を持って取り組むことにつながると思うので、前回からの改善点として検討していただきたい。

(3) 推進体制の強化

③ 地域課題が複雑化、多様化する中、行政においては、部署間の連携や情報共有の強化を図ることはもとより、政策立案・遂行能力等をも高める人材育成と、そのための環境づくりを進め、より効率的・効果的な課題解決につながるよう取り組むこと。

・総合計画の推進には部署間の連携が重要。鹿児島市は、縦割りや門前払いが少なく、機動力があり、全体として把握されている好印象がある。これは持ち味で強みであり、今後も市民に近く、研修等で情報共有も徹底してほしい。

参考（案）－ 審議会の中で出された具体的意見 －

<p>1</p>	<p>信頼とやさしさのある 共創のまち</p> <p>(1) 国内外との都市との連携・交流においては、人やもの、心を双方向に交流させ、あらゆる機会に様々な都市を巻き込む「開かれたマインド」を大切にしながら、幅広い視点で取り組むことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流と言うと外から来ていただくイメージだが、交流には往来が大切であり、来てもらうだけでなく、こちらから出ていく事も重要。</li> <li>・ネットワークの時代。市民同士のつながりや絆に加え、他のまちとの交流がより大切になってくると思う。来てもらうだけでなく、市民も他のまちに足を運びつつ、体も心（情報）も「往来」させ、様々な機会に、他のまちを巻き込み、共同で事を為す「開かれたマインド」を大切にしたい。</li> <li>・国際交流については、年代に応じた交流ができればいいのではないか。</li> </ul>
<p>2</p>	<p>自然と都市が調和した うるおいのあるまち</p> <p>(1) 森林や海、川など多様な自然資源を生かすことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緑あふれる、うるおいのあるまち」とあるが、鹿児島市は海が近く、自然は緑だけでなく青もあるのではないか。川や海など水に対することを入れるべきではないか。</li> </ul> <p>(2) 子どもや高齢者など、誰もが身近に親しみを持って利用できる視点での公園や緑地の整備が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩いて行ける公園はボール禁止のところが多く、子どもたちが歩いていけるところにも、もっと伸び伸びと遊べる公園があるといいなと感じている。</li> <li>・子どもたちが遊べる、お年寄りも健康を維持できる観点での公園整備が重要。</li> </ul>
<p>3</p>	<p>魅力にあふれ人が集う 活力あるまち</p> <p>(1) スポーツ交流・振興を進める中においては、スポーツを起点として様々な分野と連携しながら、幅広い視点で取り組むことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県の事例では、サッカーチームを支援し、障害者スポーツなどにも展開されているようである。産業・交流政策にスポーツがあるのを見て、スポーツを起点として、さまざまなところに展開できるのではないか。</li> <li>・スポーツについては、これまで文化や教育の文脈内に位置づけられがちだったが、プロスポーツや国体等は交流人口、郷土への愛着等への影響と規模が大きく、あえて特化し産業・交流政策に入れたものと理解している。一方で健康づくりのための生涯スポーツのニーズが膨らむ場合は、どこに具体的な施策を入れるか。県のウェルネス構想とも関連してくると思う。</li> <li>・「スポーツを楽しむ」について、都市像には「自分らしく健やかに生き生きと暮らしています」と書かれており、「健やか」というところから「スポーツ」に繋がっていると思うので、基本目標は「誰もが健やかに暮らせる環境を整える」といった大きなくくりの表現の方がいいのではないか。</li> </ul>

	<p>(2) ICTに関わる人材の育成を進めるとともに、農林水産業など様々な業種においてICTを活用し、生産性を上げるなど稼ぐ力の向上に取り組むことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島県のICTの分野、ITの人材という部分でいうとまだまだ人が足りていないと思う。</li> <li>・どの産業もICT化が進んでいくと思われる中で、どの都市も同じ課題を抱えていると思うが、IT人材が足りていない。全ての産業でデータを使い生産性を上げるとか、これまでは病気をしたら病院に行って診てもらっていたのが、これからは病院に行く前に自分で気づいて防ぐ未病が医療の在り方になったりとか、様々なシーンでテクノロジーが活用されていくと思う。</li> <li>・ICTを活用した産業は、ICTの業態だけでなく、ICTを活用して農林水産業などの生産性を上げるとか、商品開発をするといった着想につながるような表現があればいい。</li> </ul>
	<p>(3) 働く人のワークライフバランスを大切にしつつ、地域においても、その知識や能力を発揮しながら活躍できるような環境づくりを進めることが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳ある働き方、尊厳ある生活が基本にあるべきではないか。</li> <li>・多様で柔軟な働き方は、どのような働き方を想定しているのか分かりにくい。いわゆる非正規雇用が労働力の調整弁にできるような働き方も含んでいるのではないかと受け取れる一方、ワーケーションやテレワーク、複数拠点などの働き方もある。要はワークライフバランスである。</li> <li>・共創の観点から、働き方改革の中で市民の利益や住んでいる所に目を向けられれば、コミュニティ協議会などの活性化につながるのではないかなと思う。働き方改革について、地域活性化の視点を取り入れていただきたい。</li> <li>・鹿児島市の現状を見ると、卸売業・小売業、医療、福祉、宿泊業・飲食サービス業、運輸業、郵便業などの従業者数が多く、いわゆるエッセンシャルワーカーと呼ばれる方々である。コロナ禍の中でも、リモートワークはできず現場に行かなければならず、また、非正規も多く労働条件も厳しいといったことをおさえておく必要がある。</li> <li>・「多様で柔軟な働き方を促進し」について、「柔軟な」という言葉が、「働き方」ではなく「働かせ方」になっている現状がある。労働者が自由に選択できるのであればいい。「柔軟な」という言葉には二面性があり、悪いイメージがあるということもおさえておいていただきたい。</li> <li>・「多様で柔軟な働き方を促進し」では上からの表現と感ずる場合もあり、「市民の多様で柔軟な働き方を支援し」とすれば、市民中心に感ずるのではないかな。</li> <li>・地域づくりにおけるICTの活用について、進めていけるところはどんどん進めていくべきだと思う。働き方改革についても、是非、地域貢献とかに参加してもらって、ICTが使える方が地域の中に入ってきていただいて、貢献してもらえそうなシステムづくりというものを、この10年の間に進めていければと思う。</li> </ul>

4 自分らしく健やかに暮らせる 安心安全なまち

(1) 疾病予防等の観点などを大切にしながら、高齢化対策や健康・医療の充実に取り組むことが必要。

- ・医療についてはコロナの関係もあるし、鹿児島には火山もあり、危機管理など注目されており、非常に大事である。市民にとっても、医療と防災は、もっと高度化していかなければ、力を入れなければいけないのではないか。
- ・医療健康について、福祉もちろん大事だが、病気を予防する観点も大事だと思う。例えば、体力づくりとか健康教室をすることによって、若い人もお年の方もリスクを減らしていくというのも大事である。
- ・年を取ってくると、医療・福祉関係が一番大事であると痛切に感じる。

(2) 高齢者が生涯にわたって活躍し続けられるよう、その知識や能力などを生かしながら、地域や社会との関わりが持てるような環境づくりが必要。

- ・交通安全のために学校の周りで旗振りをしている高齢者がいるが、そういうふうに地域のどこかで高齢者が役に立っていくことが大事だ。
- ・高齢者にとって、元気をもらったり与えたり知恵をもらったり、共助互助の生活が重要。
- ・団塊の世代が後期高齢者になることや、8050問題に関する文言を入れてはどうか。

(3) 多発する自然災害への対応や桜島の大規模噴火対策など、危機管理・防災・減災力の向上に取り組むことが必要。

- ・医療についてはコロナの関係もあるし、鹿児島には火山もあり、危機管理など注目されており、非常に大事である。市民にとっても、医療と防災は、もっと高度化していかなければ、力を入れなければいけないのではないか。
- ・他の代表的な中核市や政令指定都市等と比較して、安心安全に関する内容は分厚くまとめられている印象。セーフコミュニティ再認証や火山防災トップシティ構想も踏まえ、自然の恩恵を受けながら災害等も乗り越えていく、ダイナミックで安心安全なまちづくりを世界に発信してほしい。

(1) 家庭や地域全体での子育て支援等を通して、鹿児島モデルと言えるような、安心して子育てができる都市づくりを進め、鹿児島市の強みとなるよう取り組むことが必要。

- ・「目指す都市像とはなんだろう」と思うと、フレーズとしては、やはり「安心して子育てできるまち」ということではないか。
- ・安心して子育てができる、鹿児島市が好きだという人が増えていけば人口流出は防げる。
- ・本来は子育て支援の中の一つとして待機児童対策があるべきなのに、待機児童対策をすることが子育て支援だ、という捉え方のずれみたいなものがないか。家庭での子育ての支援、あるいは、市・地域によって支えられる子育てのあり方などにも着目し、子育ての「全体が支えられている」という共通意識・方向性が現れてくるといい。
- ・国の施策を後追いするような形だと、少子化が進んでいるのに待機児童問題が深刻化するという、矛盾するような状況に鹿児島市も陥りかねない。国の施策に基づかないといけない部分は多々あるが、市独自の、鹿児島モデルと言えるような子育ての都市づくりが重要。
- ・子育てをするまちなんだという希望を裏切らないという方向性が打ち出せないか。
- ・特別支援について、今後もっと力を入れていかなければならないのではないか。

(2) 多様な考え方を大切に、市民の希望をかなえる観点から、結婚、妊娠・出産、子育ての支援に、市民や事業者を含め、社会全体で取り組むことが必要。

- ・「支援」は市民に対する支援という意味だと思うが、事業者の教育という意味合いも含ませることができればと思う。
- ・「切れ目のない」という表現は、結婚から出産、子育てまでつながっているように見えるが、それぞれ個別の選択だと思う。結婚への考え方や性自認の多様性も社会的に認識され、ジェンダー平等が言われる中で適切か。
- ・待機児童の改善も大事だが、経済的な理由で結婚が難しい方や、経済的な理由で子どもをつくりづらい方々への支援も必要だと思う。

	<p>(3) キャリア教育やICT教育、生涯学習（リカレント教育含む）について、基本計画や重点プロジェクト、実施計画における具体的な取り組みにおいて取り入れ、鹿児島市の強みや若者の地元定着、産業政策に生かすことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育の表現に、国としても強く推し進めている「キャリア教育」がないのは残念。教育の情報化も含め、先進的でエッジの効いたキーワード、鹿児島市の強みを押し出す表現がどこか1つあればと思う。</li> <li>・キャリア教育は「信頼・共創政策」や「産業・交流政策」など、他の政策と連動・横断しやすく、本来、学力向上まで含めた用語である。表題に掲げるのが難しいのであれば、各論や重点プロジェクトに期待したい。まち・ひと・しごと創生戦略を入れ込むのであれば、若年者の地元定着にもつながるので重要だと思う。</li> <li>・「生涯学習環境の充実」について、学び直しは、労働者が異なる職種へ転職する際やデジタル化など時代に合わせてキャリアアップしていくためのものでもある。産業政策としての視点での、夜間中学なども含む高校や大学との連携も含むものとして、取り組んで頂きたいと思う。</li> <li>・学校教育後の学び直しや働きながらのキャリアアップの促進に関する意見があり、リカレント教育というキーワードを入れた方がいいと思った。リカレント教育は、1973年にOECDが報告して以来ずっと言われてきたが、最近、人手不足や超高齢社会への打開策として急に脚光を浴びている。大学で社会人講座を開いても参加者が少ないことから、ニーズをもっと掘み発信し、社会人をバックアップする体制を整えなければならないと思う。鹿児島市は労働者が集まっており、その学び支援は重要。</li> </ul>
6	<p>質の高い暮らしを支える 快適なまち</p> <p>(1) 市民や観光客など誰もが利用しやすい交通環境の実現に向け、ダイバーシティの観点を大切にしながら、様々なツールの活用や結節機能の強化に取り組むことが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市交通関係では、必ず交通系ICカードが使えないという話が出る。一方で、導入には非常に高額の前算がかかり、かつ、鹿児島市は老朽化施設を多数抱える等の現状を考えると、手を出しづらい。</li> <li>・市中央部は交通網のターミナルが集まっているので、そこが接続しやすくなると、市内・市外での仕事や観光の場にも移動しやすくなり、交流人口も増えるのではないかと。</li> <li>・バスについて、特に路線バスは厳しいが、路線を守らないといけないものでもある。単純に効率的で持続可能というのは難しい事だと思う。</li> <li>・公共交通で「すべての人が使いやすい」とあるが、高齢者や障がい者、ダイバーシティの観点にもつながると思うが、どういう人でも乗れる・使えるというのは福祉の観点でも重要。環境問題にも関連してくる。今あるインフラを上手く活用しながら、まちづくりをしていく基礎となる計画としてほしい。</li> <li>・鹿児島に来てもつたいないなと思うのが、キャッシュレス決済の導入が進んでいないところ。例えばJRまではsuicaが使えるが、そこから先の市電やバスは使えず、現金決済しかできない。民間も連携していかなければいけないが、不便を強いるものでもないなので、インバウンドも含め、観光資源を強化・活用するという意味でも進めていただきたい。</li> </ul>